

科目名	映像リテラシー A 2							年度	2025
英語科目名								学期	後期
学科・学年	放送芸術科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	笹本篤・草間巧・石田桃子		教員の実務経験	あり	実務経験の職種		映像制作		

**【科目の目的】**

この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、4K放送、5Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの撮影現場に必要な、色の知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。前期では主にテレビ放送技術・知識を学び、後期で行う現代の映像制作環境学習への橋渡しとなるように進める。

**【科目の概要】**

この授業では、教員は黒板に板書きし、学生にノートに書かせる。書くことで脳を働かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。

**【到達目標】**

この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）がどのように現在の形になったのかを知ることで、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを理解することが目的となる。そして、放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか 自身がどういった分野に興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。

**【授業の注意点】**

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A デジタル化への対応	歴史を理解し、何がアナログからデジタルに変わってのかを把握している		ある程度デジタル化を理解する		理解がおぼつかない
到達目標 B 映像の伝送	通常の伝送、衛星放送、IP伝送を正しく理解し使いこなせる		伝送、衛星放送、IP伝送をある程度理解する		理解がおぼつかない
到達目標 C 照明の特性	映像と共に照明の理解、灯体の扱いに問題がない		ある程度の照明の知識はある		知識がない

**【教科書】**

各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。

**【参考資料】**

各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。

**【成績の評価方法・評価基準】**

期末試験

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		映像リテラシーA2			年度	2025
英語表記					学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	後期授業内容告知と前期の復習		後期授業内容告知	前期で学んだことを復習する		
			と前期の復習			
2	デジタル化で何が変わったか		デジタル化で何が	テレビ放送デジタル化の本当の意味を理解		
			変わったか			
3	テレビとそれ以外の映像媒体動向		テレビとそれ以外	定額動画配信とテレビ局の動きを理解する		
			の映像媒体動向			
4	放送業界の将来像		放送業界の将来像	変わる放送業界の競争環境を理解する		
5	映像信号について①		映像信号について	アナログ信号とデジタル信号を理解する		
			1			
6	映像信号について②		映像信号について	SDI信号とIP伝送、次世代通信技術5Gを理解		
			2			
7	衛星放送と地上波放送		衛星放送と	衛星放送 BS・CS、4K・8K放送の開始の		
			地上波放送			
8	データ化した作業現場①		データ化した	HD時代のオフライン、オンライン編集/テー		
			作業現場①			
9	データ化した作業現場②		データ化した	HD時代の撮影現場、圧縮、コーデック		
			作業現場②			
10	照明について①		照明について①	映像に使われる照明の役割と光の作り方を理解		
11	照明について②		照明について②	照明を扱う上での注意点や、人の心理に働		
12	データ化した作業現場③		データ化した	HD時代の撮影現場 CM美術とヘアメイク		
			作業現場③			
13	放送映画リテラシー A1・A2まとめ		放送映画リテラシー	前期と後期を通して、学んだこと、理解し		
			A1・A2まとめ			
14	放送映画リテラシー A1・A2まとめ		放送映画リテラシー	将来の映像業界、身近な映像がどのように		
			A1・A2まとめ			
15	放送映画リテラシー A1・A2まとめ		放送映画リテラシー	全体のまとめをする		
			A1・A2まとめ			

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等